一般演題

1. シンチカメラを利用した^{99m}Tc標識放射性医薬品の精度管理

富吉　勝美　井上登美夫　佐々木康人
(群馬大・核)
石原十三夫　(同・放)
細野　紀一　五十嵐　均　小林　久江
(同・中央核診部)

^{99m}Tc標識放射性医薬品の品質管理に必要な標識率測定の迅速かつ簡易法について検討した．標識率測定にはクロマトグラフィを用い，その放射能測定にはウエルカウンターの代わりにガンマカメラを用いた．不純物の遊離テクネジウムと還元水解物の分離には米国医学会Practical Guideに準拠し，それぞれの分離に要した時間は，およそ30分と15分であった．クロマトグラムを展開，風乾した後，ビニール袋の中に入れ，ガンマカメラの基準線に置き，30秒ないし60秒のイメージ撮影を行った．得られたデータは同時にシンチパック2400に収録し，CRTにY軸放射能プロファイルを作り，バックグランドを差し引いた後，不純物の比率を計算した．本法を用いたMDPの標識率測定では，95.5%と安定した標識率が得られた．従来のウエルカウンターに比べ，本法は放射性医薬品注射前に標識率をチェックできる利点がある．

2. 脳腫瘍の経時的^{123}I-IMP imageと腫瘍血流との関係——頸動脈動注法による分析——

小田野幾雄　土屋　俊明　酒井　邦夫
(新潟大・放)
武田　憲夫　田中　隆一　(同・脳外)

前および中大脳動脈支配領域のglioma 4例とmeningioma 1例に対して内頸動脈および総頸動脈よりKr-81m 10mCiを持続動注してECTを撮り，つづいて^{123}I-IMP 2.2～4.5mCiをbolus動注して経時的ECTを撮像して分析した．gliomaでは^{123}I-IMPは^{81m}Krと同一の比率で取り込まれるが，washoutは腫瘍部＞浮腫部＞正常部の順に速い．したがって通常scanされる静注30分以後では腫瘍部が低集積像として認められることがある．^{123}I-IMPの集積は動注後約10分以内であれば^{81m}Krの集積とよい相関を示し，10分以内であれば，腫瘍内血流を示していると考えられる．meningiomaではgliomaと異なり，腫瘍部の^{123}I-IMPのwashoutは正常部と同様に遅く，retention mechanismは存在していることが推測される．

3. 甲状腺悪性リンパ腫6例の検討

吉岡　明子　前田　卓郎　太田　淑子
近藤　千里　牧　正子　広江　道昭
日下部きよ子　重田　帝子　(東女医大・放)

甲状腺に発生する悪性腫瘍はその大部分が分化癌であり，悪性リンパ腫はまれである．過去6年間で，^{67}Ga-citrateによるシンチを施行した甲状腺原発の悪性リンパ腫6例について臨床経過ならびに検査所見を中心に検討を行った．対象は女性5名，男性1名で平均年齢は60.2歳，初発症状は増大する前頸部腫瘤であり，5名に慢性甲状腺炎の合併が示唆された．^{67}Ga-citrateによるシンチではいずれも高い集積を示し，治療後では集積は消失した．^{67}Ga-citrateは悪性リンパ腫の診断に有用で増大傾向のある甲状腺腫があり，慢性甲状腺炎の所見を呈する症例では，積極的に応用すべき検査法であると考えられた．

4. 胸腺原発カルチノイドの腫瘍シンチグラム

猪狩　秀則　中村　豊　小野　慈
(神奈川県がんセ・核)
西連寺意勲　岡本　堯　(同・外)
野田　和正　(同・呼吸器)

胸腺原発のカルチノイドの2症例を経験したので核医学検査中心に報告した．胸腺カルチノイドは比較的まれで本邦ではこれまで30数例の報告があるのみである．

症例1：37歳，男性．主訴は咳，痰，息切れ．ホルモン分泌症状やカルチノイド徴候はなかった．Ga, Tlともに腫瘍に集積した．肺と腫瘍とのカウントの比はGa

Presented by Medical*Online